



# つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!



## NPOクラブが県内避難者支援活動を継続するわけ

### 「帰りたいけど 帰れない」を支援するために

2011年3月11日、2時46分、東日本大震災が発災したとき、私たちは事務所でパソコンに向かっていました。今まで経験したことがない揺れに恐怖を感じましたが、よもや、2万人超の人命が奪われた上に、福島第一原子力発電所の事故により多くの人たちが住まいを奪われ避難するといった未曾有の災害になるとは思いもよりませんでした。

悲惨な状況を伝える報道を見聞きし、日本中の誰もが、「何かできることはないか」と思ったのではないのでしょうか。当団体のスタッフの何名かもボランティアバスで被災地に行きました。団体としては直接的な支援活動を組むことはせず、他の組織の活動に積極的に協力しました。その年の夏、交流のあったせんたい・みやぎNPOセンターの縁で、「浪江町から関東地域に避難して暮らす町民の方への取材を

してもらえないか」との依頼がありました。当初は、どんな思いで避難先にたどり着いたか、家族の様子などを伺い、いっしょに涙を流すこともありました。取材記事は、広報浪江「なみえのこころ通信」に掲載されています。この活動は現在も継続しています。

福島をはじめとする東北3県から多くの方々が千葉県各地に避難され、現在も約2700人が暮らしています。千葉県は被災地であるという理由で、県としての避難者受け入れ施策がない状況でした。被災地、被災者支援の活動を行う団体のネットワークづくり、支援情報を掲載した情報紙づくりと避難世帯への送付、相談対応等の活動を継続することで、暮らしの不安を軽減し、健やかな暮らしに戻れるようお願い活動していきます。

皆さまからの会費・寄付がNPOクラブの活動を支援しています!  
活動に賛同して下さる会員・寄付を引き続き募集中です。

### 定期総会&講演会

2018年**6月2日(土)** 千葉市生涯学習センター3F 大研修室

- 13:00～14:30 第18回 NPOクラブ定期総会
- 15:00～17:00 講演会

講演会:「**そうだったのか。SDGs**  
**～誰一人取り残さない世界をつくる**」



経済・社会・環境のバランスが取れ、「誰一人取り残さない」世界を2030年までに実現することを目指すSDGs。私たちが求める地域や生活のあり方とも大きく関わっています。実現のために、地域でできる取り組みを一緒に考えます。  
(※SDGs = Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)

講師: **新田英理子さん**  
(一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク 事務局長)

参加費: 500円

定員: 80名 (先着順)

主催: NPOクラブ ※テーマに関心のある方は、どなたでも受講できます。

◆申込み・問合せ: NPOクラブ(下記連絡先)



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

### 景観まちづくりフォーラム2018

#### 海辺の復興景観まちづくり 伝えよう 子どもたちの笑顔のために!



日時: 2018 **5月26日(土)**

10:00～16:20

大きな津波被害を受けた旭市飯岡地区。復興に向けたまちづくりへの取り組みを景観のなかを感じながら、まち歩きます。眺望や変化に富む魅力的なコースです。午後は、活動報告&パネルディスカッション。

集合場所: いいおかユートピアセンター(車の方) 9:20

JR総武本線飯岡駅(電車の方) 10:00

定員: 100名【申込先着順、申込締切5/7(月)】

参加費: 無料(昼食は各自負担)

※歩きやすい服装で参加ください。

主催: 景観まちづくり千葉協議会、千葉県

後援: 旭市

◆申込み・問合せ: <景観まちづくり千葉協議会事務局団体>  
NPOクラブ (下記連絡先)

### 「子ども見守りサポーター養成講座」

支援が必要な子どもに気づくために何が出来るか、どんな支援が必要かを、具体的な方法を学びながら、一緒に考えます。

日時: 2018年 **5月20日(日)**

13:00～16:00(予定)

場所: 四街道市文化センター 会議室

講師: **石井正宏さん**

(神奈川県立田奈高校 ぴっかりカフェ運営者、  
NPO法人パノラマ代表理事)

定員: 60名

参加費: 無料

※詳細については後日お知らせします。

主催: 四街道市みんな地域づくりセンター

◆問合せ: 四街道市みんな地域づくりセンター

TEL043-304-7065 FAX043-422-7051

Email info@minnade.org



◀編集・発行▶ 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: http://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npoclub1

f http://www.facebook.com/NPOclub t https://twitter.com/npoclub

・運営会員26名 賛同会員99名 発行1,000部 会員・県内外市民活動支援センター・自治体等に送付しています。



# 「復興は進んだか」－東日本大震災の被災地の現状とこれから－ 浪江町と富岡町そして福島第一原子力発電所の視察を通して

## 被災地視察バスツアー

震災から7年を過ぎた。福島第一原子力発電所の事故により避難指示の出されていた福島県浪江町は2017年3月31日に、富岡町は4月1日に、それぞれ山間部の一部地域を残して避難指示が解除された。しかし、今年3月現在で町に帰還した人たちは、浪江町が約490人(震災前の2.3%)、富岡町が約460人(震災前の3.4%)と、多くはない。富岡町、浪江町の様子に違いはあるのか?病院や店舗などの整備は進んでいるのか?帰った人たちの暮らしや思いを含め実際に確認したいと、1月19日～20日に「被災地視察バスツアー」を開催した。参加者は大熊町、浪江町、南相馬市、宮城県から避難し千葉で暮らす15名の方と復興支援員や支援団体のメンバー9名のあわせて24名。被災地には何度か行っているが、避難指示が解除された町に行くのは初めてという人がほとんどだった。



### 福島第一原原子力発電所の今

富岡町にある「旧エネルギー館」で、東京電力の職員から廃炉に向けた作業状況の説明を受けた。資料に沿った説明は、テレビや新聞に掲載されている内容より詳細で、廃炉に向けた作業の進捗状況と今後の工程がよくわかった。原子力発電所の敷地内には、貴重品も含めて何も持ち込まないようにとの指示を受け、線量計を受け取り敷地内専用のマイクロバスに乗車、約50分かけて1号機から4号機周辺と関連施設を視察した。

#### 〈改めて驚いたこと〉

- ・第一原子力発電所で働いている人は事故前は3000人、事故後は5000人。
- ・汚染水から放射性物質を取り除く作業を進めているがトリチウムを除去することができず、毎日約120トンの汚染水が増え続けている。
- ・震災前に、社員が避難した際に残した約800台の車は、放射能汚染で敷地外に持ち出すことができず、敷地内の整備工場では整備し、敷地内のみで利用されている。⇒廃炉作業のために持ち込まれた重機や膨大な機材は、作業終了後も敷地外に撤去することは難しい。
- ・建屋がほぼ原形をとどめている2号機は、震災翌日に水素爆発を起こした1号機、3号機よりも建屋内の汚染度が高く、建屋内の線量を低くするための作業を始めたばかり。
- ・作業はほとんど午前中のみ。「夏場の熱中症予防のための短時間労働が通年に定着した」との説明があったが、リスクの高い作業のためだと思われる。午後3:00頃になった今回の視察では、作業をしている人を見かけることはなかった。

#### 〈廃炉に向けた課題〉

- ・周辺のカレキの除去作業や放射性物質の除去作業が行われている段階で、4号機に続き3号機、1号機、2号

機の順に進められる使用済み燃料の取り出し作業が終わるのは約5年後の予定。2021年内に核燃料デブリの取り出し開始予定となっているが、「時間よりもリスク回避」の言葉が何度か聞かれ、改めて危険な作業であることを感じた。

### 避難指示が解除された町

避難指示が解除されて約10ヶ月。富岡町の町内を、NPO法人富岡町3.11を語る会の仲山弘子さんに案内していただいた。1時間ほどかけて町中を回ったが、住宅街で見かけた町民は2人。車の往来はあるが、歩いている人はほとんどいない。屋外スポーツ施設で運動する若者たちを見かけ、町が動いていることを感じホッとした。避難指示解除直後は、宅急便も届けてもらえない状況で、町で暮らすには苦労が多かったが、今は「ヨークベニマル」が新店し生鮮品や日用品の買い物は町内でできるようになったとのこと。ただ、帰ると決めた人は少なく、震災前と同じ町に戻れるとは思えない。

浪江町内の案内は、浪江町産業振興課の大柿さんをお願いした。1年前に訪ねた時には、震災当時のままだった住宅も、多くは立て壊しとなり更地となっている場所が目立った。役場を中心にして、診療所や「まち・なみ・まるしえ」が整備され、視察当日も「まるしえ」の飲食店は、役場職員や町民でにぎわっていた。生鮮食料品が町内では買えず、隣接する原町まで車で行かなければいけないというのが課題となっているようだ。

### 不便は当たり前

町内視察の後、帰還された町民6名の皆さんとの交流会を開催。「不便なことはないですか?」との問いかけに「帰った人は、不便は覚悟して来た。便利さを求めたらきりがないが、当たり前と思えば苦労はない」との答え。畑

でできた野菜や総菜を隣近所でやり取りをする暮らしは、避難先ではできなかった。帰って来て、ホッとしているとのこと。逆に、「避難先で不便に感じていることはないか?」と問いかげられ、「隣近所の付き合いは少なく寂しい思いをすることもある」と答える場面もあった。



### 「福島のこと」ではない

視察バスツアーを通して、福島第一原子力発電所の事故は、「福島のこと」ではないことを再認識させられた。日本人として、この事故をどう受け止めるか、廃炉の工程と周辺の町民の暮らしに関心を持ち続けることが必要と感じた。一緒に考えていきませんか。

## 被災者支援～NPOクラブのこれまでの取り組み～

### 福島第一原原子力発電所の今

#### 1. 情報紙「緑 joy」の発行

(毎月2,500部)(1月号を除き毎月発行)

Vol.1は2013.9月発行、最新号 Vol.50は2018.4月発行

内容:千葉県内の支援団体情報、避難者インタビュー、支援団体インタビュー、交流会等のお知らせ、こころと体の小ネタ(千葉県臨床心理士会) 他

配布先:福島県内の被災地の自治体1,120部、岩手県80部⇒千葉県に避難された家庭に送付(浪江町300、双葉町100、大熊町140、富岡町230、いわき市70、飯館村25、川内村25、南相馬市170、福島市60)

- ・千葉県内自治体(避難者まで配布9自治体、配架用18自治体)
- ・千葉県内の市民活動センター、社会福祉協議会、支援団体



#### 2 復興応援イベント「緑 joy・東北」の開催

第6回開催:2017.12/2(土)

開催場所:イオンモール幕張新都心グランドスクエア(第1回:マザー牧場、第2回:千葉市ビジネス支援センター会議室、第3～5回:千葉市きばーで開催)

目的:避難者と支援者が一緒に企画、運営することで、避難された方々の不安軽減と仲間づくり、一般市民が大震災を忘れず、被災地・被災者への応援の気持ちを持ち続けること

内容:東北被災3県の物産販売、千葉県内支援団体による手作り品販売、専門家による相談対応ブース、大学生による親子遊び、ステージ企画(民謡・踊り・被災地での伝統芸能披露・復興キャラクターキピタンとチーバくんのステージ) 他

来場者数:第6回650名(スタッフ150名含む)

実行委員会メンバー:千葉県内支援団体、千葉県社協、千葉市社協、千葉大学生、千葉商科大学生 他



#### 3. バス旅行

(毎回、避難者と支援者と一緒に大型バス1台40名定員)

千葉を楽しむバス旅行(日帰り)2013、14年度に各1回開催。外出する機会を増やし、避難者同士の交流を促し、千葉のいいところを紹介。被災地視察バスツアー(一泊)2014、15年度に各1回開催。福島県復興公営住宅の見学と交流、仮設住宅の訪問交流、被災地での除染状況の確認などを通して、帰還について考える機会にさせていただく。2018.1/19～20の被災地視察バスツアーは、昨春に一部の避難指示が解除され住民の帰還が始まった浪江町と富岡町を視察、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた現場を見学(前ページに詳しく紹介)、自分の目で確かめたいという避難者の要望もあり実施。

#### 4. 情報交換会の開催

2013年度より、毎年3～4回開催。

メンバー:千葉県内支援団体、福島県担当課職員、千葉県担当課職員、千葉市社協、千葉大学生、各被災地の復興支援員 他 約20名

内容:各支援団体の行事予定や報告、課題の共有。講師を招いて勉強会を開催し、支援の在り方など検討。これまで、「阪神淡路大震災後の20年間の支援から学ぶ」「実際の電話相談の現場から 被災者支援のこれからを考える」を開催。今年は「福島のことを学ぶ」と題して、避難指示解除された町の様子を学んだ。2018.2/13現在福島県から千葉県に避難されている方:2,320名(ピーク時2013.10/10現在:3,406名)福島県県外避難者相談センター(ちば)設置。千葉県内に避難された方々の相談窓口を2017年春より開設。(福島県からの委託により、全国26ヶ所の拠点のひとつとして運営)避難元市町村の復興支援員事業が縮小される中、これまで以上の相談が見込まれる。福島県復興支援員と連携・協力して相談内容に応じて各専門機関につなげている。

連絡先:千葉市花見川区検見川町3-159-2(おおなみなみ内)電話:043-375-7148  
相談専門ダイヤル:080-5418-7286